

日本共産党
厚木市

議員団ニュース

2011年8月② 374号

議員団HP <http://jcpatsugi.blog.shinobi.jp/>

議会改革の一步

議長・副議長選挙で、非公開ながら立候補表明

選挙後初の厚木市議会臨時会(8月10日)

今週の活動から



貼まつり会場で核兵器廃絶署名を訴える釘丸議員(左)、
駅前広場の清掃をする栗山議員(右) (8月6日)

しかし、今回の立候補表明を見ますと、表明の内容での選挙には至っていないことが明らかです。この様子を市民の皆さんが見たら、議会をわかりやすく、身近なものと感じることができるとは思いますが。

今臨時会では「広報広聴委員会」が特別委員会として独立しました。

議会が市民に親しまれるものとなるよう、今後も、日本共産党厚木市議員団は、努力してまいります。

議長選挙の結果

小島一郎 28票(改選あつぎ)

副議長選挙の結果

釘丸 久子 2票(日本共産党)

川口 仁 28票(公明党)

市議選から1ヵ月、新議員になってから最初の議会が8月10日(水)開催されました。

市長が「議会と行政が適切な緊張関係をもちながら、福祉の向上と厚木市の発展のため、議論をしていきたい」とあいさつ。

その後は、議長・副議長選挙です。別室に移り立候補表明をします。立候補者は議長に1名(小島一郎議員)、副議長に立候補したのは釘丸久子議員と川口仁議員。くじ引きで表明の順番を決めます。釘丸議員は2番目。

議長選では、小島議員が地方分権や今回の厚木市議選の低投票率などに触れての立候補表明。副議長選の1番目の川口議員は「副議長に立候補しました。よろしく、程度の極めて短い挨拶。釘丸議員の立候補表明は、下の通りです。

残念ながら、立候補表明は非公開です。1昨年にくれた「議会の在り方検討会」「広報広聴委員会」での議論を経て、今回から、議長・副議長の立候補者は表明ができることになりました。

身近な議会、市民福祉の向上を

副議長選挙の所信表明 釘丸久子

東日本大震災は、国民生活に多大な影響をもたらしました。防災の在り方、人と人との絆をどのように作っていくか、さらに、原子力発電所の危険性が明らかに、自然エネルギー、再生可能エネルギーへの転換の機運が高まっています。

東日本大震災は福祉や防災、経済の面でもこれまでの国の在り方を見直していかなければならないという状況になっています。ここ、厚木市でも行政や議会に新たな対応が求められています。

先の厚木市議会議員選挙の投票率は、4年前と比べて6%近くも下がり、40・78%になりました。有権者の5人に3人が投票に行かなかったことになりません。投票率がこれだけ下がったことは、政治不信なのでしょうか、市政への無関心なのでしょうか。

しかし、私たち議会人は、市民の側にその原因を求めるのではなく、この現実に向き合わなければなりません。

市政は、市民にとって一番身近な政治です。執行機関としての市長や行政が、市民のための市政になっているかをチェックすることが、議会・議員の最大の任務です。そして、それを市民に適切に伝えていくこと、さらに、市民の意見を行政に反映させることが大切だと考えます。

厚木市政56年間のなかでは、右肩上がりの時代もありました。いま、人口の伸びは停滞、財政が厳しいと言われています。しかし、財政力指数も全国有数であり、厚木の市ではトップです。市民の納めた税金をどう市民のために使わせるかが、議会・議員の役割であると考えます。

子ども医療費助成や、中学校給食の実施、リフォーム助成など県内で誇るべき制度が行われています。これは市民活動の成果であり、市民の意見を反映して、議会・議員がその実現のために奮闘してきたからです。

厚木市議会では「議会の在り方検討会」や「広報広聴委員会」で、議会改革についての議論をしてきました。議会報告会の実施、市民への積極的な広報広聴、議会論議の活発化など方向性が示されました。

新しい議会では、その成果を実行に移す時です。議会の論議が活発になり、市民の方から「傍聴に行くと市政の様子がよくわかる」「議会が身近に感じられる」といわれるような、議会運営をしていこうではありませんか。

新しい議長とともに、厚木市議会をさらに活性化させ、市民に開かれた議会とし、市民福祉の向上、より良い厚木市実現のために力を尽くすことを約束して、私の副議長選挙に向けての所信表明といたします。

